

秋ギク「神馬」の親株に対するベンジルアミノプリン処理が
挿し穂の発根および切り花の生育に及ぼす影響

○照屋博康・中村薫・郡司定雄
(宮崎総農試)

【目的】

夏期における秋ギク「神馬」の親株栽培では、高温により腋芽が消失しやすく、安定的な穂の生産が困難である。腋芽消失の防止対策としてベンジルアミノプリン(以下BA)の摘心時散布が行われている。しかしながら、生産現場においてはBA処理により穂の発根が悪くなるといわれており、BA処理を控える事例が認められる。

そこで、親株摘心時のBA処理が挿し穂の発根および定植後の生育に及ぼす影響について調査した。

【材料及び方法】

供試品種は「神馬」からの選抜系統である「神馬66-4」(宮崎総農試)と「神馬2号」(鹿児島総農試)を用いた。親株は2010年7月16日に定植し、7日後に摘心を行った。試験区は処理の有無により2区設け、BA処理は摘心後BA15.0ppm液を株当たり6ml処理し、無処理区は同量の蒸留水を散布した。挿し穂は8月18日に採取し、6cmの長さに調整後、5℃で8日間保存し、8月26日にオキシベロン液剤1000倍液に1時間浸漬処理後、メトロミックスを充填した200穴セルトレイに挿し芽した。根長は挿し芽から7日目および14日目、根重は14日目に乾燥根重を計測した。発根調査しなかった苗は9月9日に宮崎総農試内硬質フィルム被覆ハウスへ定植した。栽植密度は13.5cm角5目ネットの中1目空け、1マス2本植えの4条植えとした。施肥は基肥としてN:P₂O₅:K₂O=1.5:1.5:1.5kg/aを施用した。電照は22:00から2:00の4時間の暗期中断法で行い、10月22日に消灯した。温度管理は、電照期間中は昼温24℃、夜温12℃とし、消灯後は昼温24℃、夜温15℃を目標に管理した。

【結果及び考察】

親株に対するBA処理の有無が穂の発根に及ぼす影響について表1に示した。両系統ともに、挿し芽から7日目および14日目の最大根長に区間の差はなかった。また、根重についても根長と同様に区間の差は認められなかった。

平均発蕾日および平均収穫日は、両系統ともに区間の差は認められなかった(データ略)。

親株に対するBA処理が定植後の生育および切り花品質に及ぼす影響について表2に示した。「神馬66-4」は、BA処理区の消灯時草丈、切り花長、消灯時節数および収穫時節数の値が有意に増加した。一方、「神馬2号」では「神馬66-4」と異なり消灯時草丈、切り花長、切り花重および90cm調整重に差が認められないものの、消灯時節数および収穫時節数では「神馬66-4」と同様にBA処理区で有意に増加した。

以上のことから、親株摘心時のBA処理は挿し穂の発根に影響が無く、さらに収穫日や切り花品質も低下しないことが明らかとなった。また、両系統のBA処理区では無処理区と比較して、消灯時および収穫時節数が有意に増加したため、今後BA処理と節数の関係性について検討する必要があると思われる。

表1 親株に対するベンジルアミノプリン処理が挿し穂の最大根長および乾燥根重に及ぼす影響

系統	神馬66-4				神馬2号			
	最大根長		乾燥根重		最大根長		乾燥根重	
	7日目 (mm)	14日目 ¹⁾ (mm)	(mg)		7日目 (mm)	14日目 (mm)	(mg)	
無処理区	27.6±2.0 ²⁾	39.9±3.6	9.6±2.5		23.9±5.9	49.3±5.4	9.2±2.0	
BA処理区	26.5±1.2	45.3±12.0	8.8±2.0		28.1±7.3	53.6±5.3	10.2±3.2	
有意性 ³⁾	n. s.	n. s.	n. s.		n. s.	n. s.	n. s.	

²⁾:親株摘心時に処理区にベンジルアミノプリン15.0ppm液を6ml/株葉散布、無処理区は蒸留水を散布

¹⁾:挿し芽後の日数

³⁾:平均値±標準偏差

⁴⁾:t検定(Weich)によりn. s.は有意差なし

表2 親株に対するベンジルアミノプリン処理が定植後の生育および切り花品質に及ぼす影響

系統	神馬66-4							神馬2号						
	消灯時草丈 (cm)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	90cm調整重 ¹⁾ (g)	消灯時節数 (節)	収穫時節数 (節)		消灯時草丈 (cm)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	90cm調整重 (g)	消灯時節数 (節)	収穫時節数 (節)	
無処理区	51.5±2.7 ²⁾	87.8±2.8	50.8±8.1	44.9±7.4	26.5±1.2	42.2±1.6		58.3±4.3	97.3±5.0	61.8±11.1	51.5±8.8	28.7±1.6	45.2±2.7	
BA処理区	56.1±4.1	92.4±4.8	54.4±11.2	47.0±8.4	29.2±1.9	45.8±2.5		59.9±4.3	99.0±4.4	57.9±12.4	47.7±9.2	30.3±2.4	47.2±3.0	
有意性 ³⁾	**	**	n. s.	n. s.	**	**		n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	*	*	

²⁾:親株摘心時に処理区にベンジルアミノプリン15.0ppm液を株当たり6ml葉散布、無処理区は蒸留水を散布

¹⁾:90cmに調整後、切り花の下部15cmの葉を除去した重量。90cmに満たない場合は下部15cmの葉のみを除去した重量

³⁾:平均値±標準偏差

⁴⁾:t検定(Weich)により,**は1%、*は5%水準で有意差有り